

創政・改革クラブ視察研修報告



岡山県岡山市

研修目的：SDGsとESDについて

実施日：令和3年11月10日

創政・改革クラブ

研修目的：岡山市のSDGsとESDについて

高山市は2021年5月SDGs未来都市に指定されました。岐阜県では岐阜市・美濃加茂市と同時指定でしたが、残念ながらモデル事業の指定には漏れました。高山市は「世界を魅了し続ける国際観光都市飛騨高山の実現」での応募でしたが、より具体的な提案事業の組み立てで応募した「岐阜市」「美濃加茂市」の提案には叶わなかったとあります。

2018年国の第1回SDGs未来都市指定から、2021年までの指定都市は以下のとおりです。

SDGs未来都市一覧												
2018年指定(全29都市) ※都道府県・市区町村コード欄			2019年指定(全31都市) ※都道府県・市区町村コード欄				2020年指定(全33都市) ※都道府県・市区町村コード欄					
北海道	★北海道士郎市	青森県 青森市	岩手県 花巻市	福島県 福島市	茨城県 水戸市	群馬県 高崎市	栃木県 宇都宮市	茨城県 水戸市	群馬県 高崎市	栃木県 宇都宮市	埼玉県 さいたま市	東京都 目黒区
	札幌市	岩手県 盛岡市	福島県 福島市	茨城県 水戸市	群馬県 高崎市	栃木県 宇都宮市	茨城県 水戸市	群馬県 高崎市	栃木県 宇都宮市	埼玉県 さいたま市	東京都 目黒区	東京都 目黒区
北海道	札幌市	岩手県 盛岡市	福島県 福島市	茨城県 水戸市	群馬県 高崎市	栃木県 宇都宮市	茨城県 水戸市	群馬県 高崎市	栃木県 宇都宮市	埼玉県 さいたま市	東京都 目黒区	東京都 目黒区
	札幌市	岩手県 盛岡市	福島県 福島市	茨城県 水戸市	群馬県 高崎市	栃木県 宇都宮市	茨城県 水戸市	群馬県 高崎市	栃木県 宇都宮市	埼玉県 さいたま市	東京都 目黒区	東京都 目黒区
北海道	札幌市	岩手県 盛岡市	福島県 福島市	茨城県 水戸市	群馬県 高崎市	栃木県 宇都宮市	茨城県 水戸市	群馬県 高崎市	栃木県 宇都宮市	埼玉県 さいたま市	東京都 目黒区	東京都 目黒区
	札幌市	岩手県 盛岡市	福島県 福島市	茨城県 水戸市	群馬県 高崎市	栃木県 宇都宮市	茨城県 水戸市	群馬県 高崎市	栃木県 宇都宮市	埼玉県 さいたま市	東京都 目黒区	東京都 目黒区
北海道	札幌市	岩手県 盛岡市	福島県 福島市	茨城県 水戸市	群馬県 高崎市	栃木県 宇都宮市	茨城県 水戸市	群馬県 高崎市	栃木県 宇都宮市	埼玉県 さいたま市	東京都 目黒区	東京都 目黒区
北海道	札幌市	岩手県 盛岡市	福島県 福島市	茨城県 水戸市	群馬県 高崎市	栃木県 宇都宮市	茨城県 水戸市	群馬県 高崎市	栃木県 宇都宮市	埼玉県 さいたま市	東京都 目黒区	東京都 目黒区
北海道	札幌市	岩手県 盛岡市	福島県 福島市	茨城県 水戸市	群馬県 高崎市	栃木県 宇都宮市	茨城県 水戸市	群馬県 高崎市	栃木県 宇都宮市	埼玉県 さいたま市	東京都 目黒区	東京都 目黒区
北海道	札幌市	岩手県 盛岡市	福島県 福島市	茨城県 水戸市	群馬県 高崎市	栃木県 宇都宮市	茨城県 水戸市	群馬県 高崎市	栃木県 宇都宮市	埼玉県 さいたま市	東京都 目黒区	東京都 目黒区

2018年29都市、2019年31都市、2020年33都市、2021年31都市と合計これまでに124都市が選ばれています。モデル事業には毎年10都市40都市が指定されているとあります。

これまで第1次指定の北海道下川町、第2次指定の南砺市、第3次指定のいなべ市等特徴ある計画まちづくりの計画について興味を持ち少し調べてはいますが、今回第1次指定都市の岡山市について取り上げることにし、その計画の原点ともいえるESD事業の取り組みと共に研修を受けてきました。

岡山市の取り組み

ESDの推進によりSDGsの達成に貢献します(メインテーマ)

ESD(Education Sustainable Development 持続可能な開発のための教育)は、SDGsの全ての目標達成のための鍵。社会課題解決を目指した学びと実践、人材の開発など、岡山市が2005年から取り組んできたESDを一層推進していく事により、SDGsの達成に取り組んでいます。

「ESDに関するこれまで経緯

- 2005年岡山ESD推進協議会設置「岡山ESDプロジェクト」開始
- 2014年ESDに関するユネスコ世界会議を岡山市で開催
- 2016年「岡山ESDプロジェクト」がユネスコ/日本ESD賞受賞
- 2018年岡山市がユネスコ学習都市賞受賞

その為に次の4つの組み立てで事業を推進していきます。

1.都市間連携の活動・産学連携

- ・「おかやまSDGs」アワードの実施 岡山県の優れた事業を顕彰
2020年から実施、産官学民連携の組織による
- ・岡山連携中枢都市圏構想における8市5町で住民や職員研修

2.SDGs未来都市 重点事業の推進

「誰もが健康で学び合い生涯活躍するまち岡山を推進」がテーマのもと以下の事業を推進。(ソーシャル・インパクト・ボンド(SIB))

取り組み内容①	AIを活用した健康見える化事業
取り組み内容②	SIB健康ポイント事業「岡山県健康大作戦」
取り組み内容③	SIBを活用した生涯活躍就労支援事業

3.SDGs推進体制の整備

- ・岡山市SDGs推進本部を設置(市長副市長・局長・区長等)
- ・2020年よりESD推進課をSDGs・ESD推進課に改組

4.SDGs普及啓発事業

- ・市民への啓発イベント、学び合うフォーラムを開催

未来ワクワクSDGsフェスタ 市内大型商業施設での開催
SDGsフォーラムの開催 産官学民連携の学び合い開催
月1回のSDGsカフェの開催 17の目標毎の講演や交流会開催

健康づくりや環境に優しい交通ネットワーク等に関する啓発資料

SDGs達成に向けた岡山市の主な取組

岡山ESDプロジェクト推進事業

岡山市では、国連ESDの10年が始まった2005年に岡山ESD推進協議会を設立し、岡山地域における持続可能な社会づくりを目指すESD活動を推進していくため、「岡山ESDプロジェクト」を開始しました。

岡山ESDプロジェクトの目標

- ・岡山地域に暮らす全ての人々が持続可能な社会づくりに対する知識や理解を持つ、
- ・持続可能な社会づくりに主体的に取り組む人の輪を地域全体に広げる、
- ・ESDを推進する各組織を育成し、能力を高める。

岡山地域では、公民館やユネスコスクール等の学校を拠点として、各コーディネーターの活躍のもと、各地域の特色に応じたESD活動を展開しています。また、市内外の優良事例を顕彰するESD岡山アワードをはじめ、フォーラムや研修事業等を実施し、社会課題の解決に向けた学びと実践の機会を設け、SDGs達成につながる人材育成を進めています。

健康づくりと生涯活躍推進事業

市民の健康寿命の延伸を目指して、地域を中心とするヘルスケア関連企業や健康研究に取り組む市内企業、地域とともに、SIB手法を活用した「おかやまケンコー大作戦」を2019年4月から開始しました。岡山市内の様々なお店や施設で健康につながるサービスを受けることで、ポイントがたまり、健康な体と魅力的な特典を手に入れるプログラムです。

また、「AI」を活用した将来疾病リスクの見える化や「生涯活躍のための就労支援」に取り組み、健康の好循環を促進します。

環境にやさしい交通ネットワークの構築

県庁通りの歩道幅増等の歩いて楽しい通学空間の整備をはじめ、路面電車の岡山駅前広場への乗り入れ、交通不便地域における生活交通の確保、バス車両及び停留所のバリアフリー化等のバスの利用環境の向上、自転車走行空間の整備やコミュニティサイクル「ももちゃり」の利用促進等の自転車先進都市おかやま事業等に取り組むことで、自動車への過度な依存から脱却し低炭素社会にも適切に対応する環境にやさしい交通ネットワークの構築を図ります。

岡山市がSDGsの推進基盤として据えるESDの活動とは

「岡山ESDプロジェクトの目的」

持続可能な社会の実現に向け、共に学び、考え、行動する人が集う地域づくり

として明確な目的意識をもって組織を整え、市民団体・行政・学校・公民会・企業・メディア・大学の参加を得て活動組織を整えてきた。活動団体を重点活動組織として捉え2,005年の48組織から2021年330団体にまで成長した。

「ESD活動のテーマ」

①当初は「環境保全」と「国際理解」

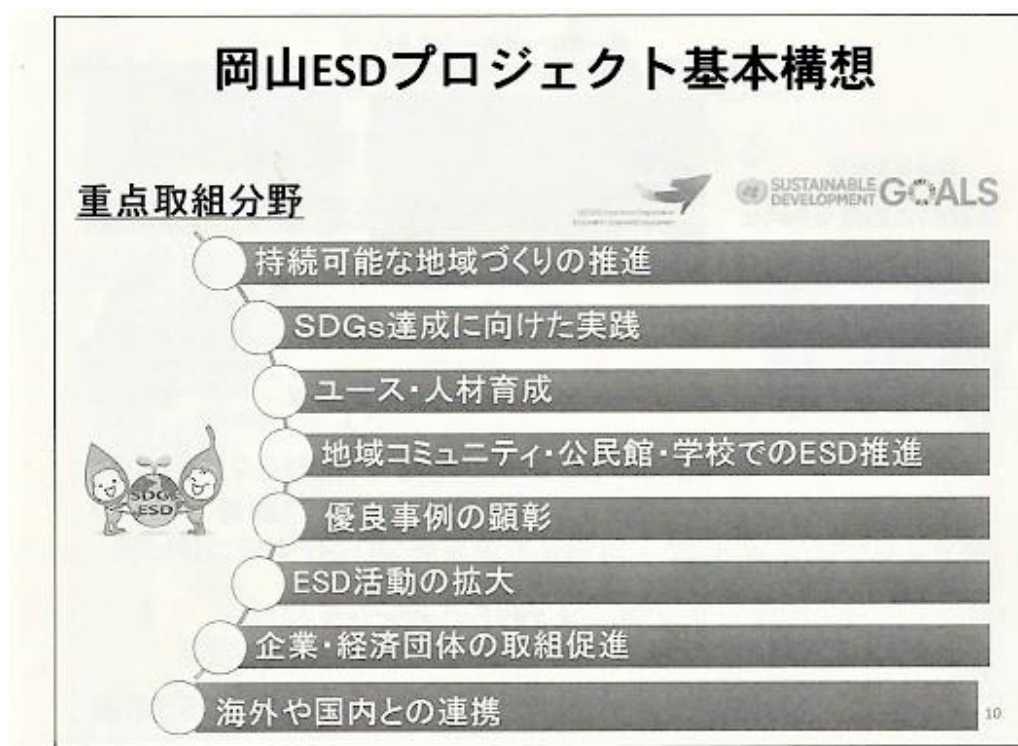
②公民館との連携をもとに

「地域コミュニティ」のかかえる身近な課題から

持続可能な社会づくりを捉える 視点へ重点化

③地域コミュニティの身近な視点と、岡山地域、グローバルな視点を持つ活動が別々でなく共有されるようにしていく事が必要

として捉え基本構想に次のように重点取り組み分野を据えています。



「地域で学び共につくる持続可能な社会へ」というテーマに込められた思いに、「この地球でみんなが ずっとずっと 幸せでいられるように」と次世代に学んで引き継ぐこの地球 とその大切さについて言及し、共に学ぶことの重要性を強調しています。

(E)え～ものを (S)子孫の (D)代まで と読み替えて発信しています。

この推進体制の構築が、2018年度のSDGs未来都市指定の原動力となったと担当者も誇らしげに語られたところです。

岡山市のESDの実践について

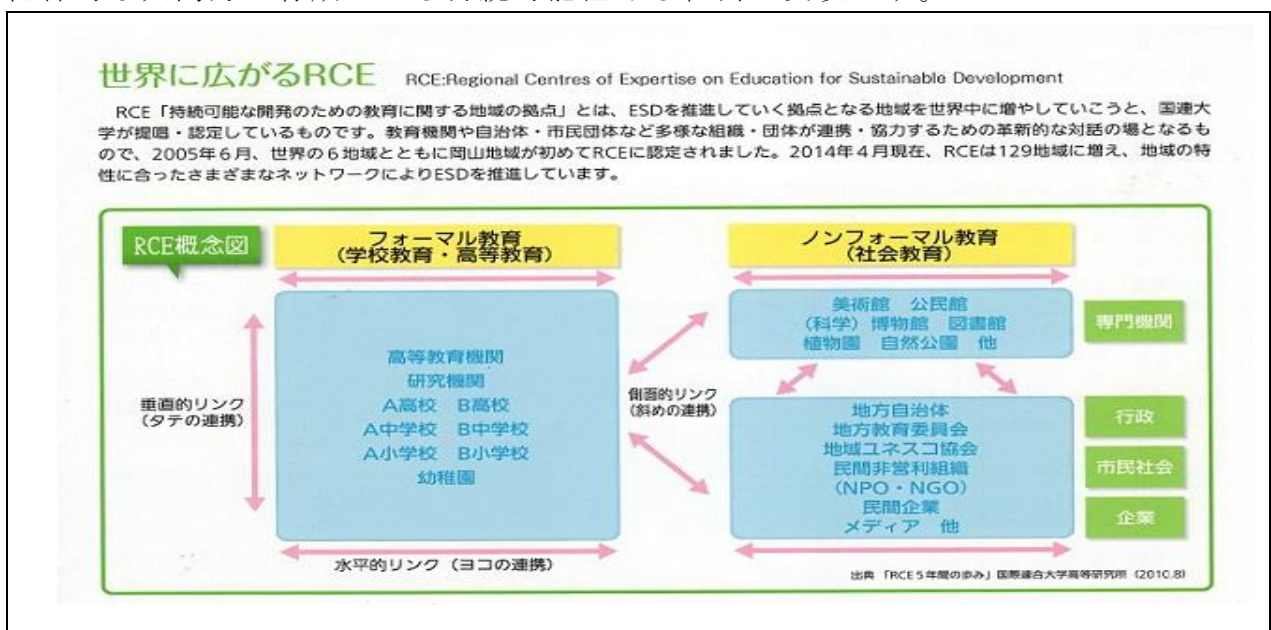
これほど力を入れているESD活動の目指すところは次のようなものです。

ESDを目指すこと

- 目標**
 - 全ての人が質の高い教育の恩恵を享受すること。
 - 持続可能な発展のために求められる原則、価値観及び行動が、あらゆる教育や学びの場に取り込まれること。
 - 環境、経済、社会の面において持続可能な将来が実現できるような価値観と行動の変革をもたらすこと。
- 基本的な考え**
 - ESDは持続可能な社会づくりのための担い手を育む教育です。
「人間性を育むこと」「『関わり』『つながり』を尊重できる個人を育むこと」
 - 環境教育、国際理解教育、基礎教育、人権教育等の持続可能な発展に関わる諸問題に対応する個別分野の取組のみではなく、様々な分野を多様な方法を用いてつなげ、総合的に取り組むことが重要です。
- 育みたい力**
 - 持続可能な発展に関する価値観（人間の尊重、多様性の尊重、非排他性、機会均等、環境尊重等）
 - 体系的な思考力（問題や現象の背景の理解、多面的かつ総合的なものの見方）
 - 代替案の思考力（批判力） ● データや情報の分析能力 ● コミュニケーション能力 ● リーダーシップの向上



総合的な人間力の育成による持続可能性ある社会の実現です。



その為には RCE「持続可能な開発の為の教育に関する地域の拠点」作りを重要視しています。(Regional Centres of Expertis on education for sustainable development)。

特に岡山市ではノンフォーマル教育分野として社会教育分野を重要視し特色ある活動を展開しています。公民館や学区の活動を重視した施策の展開です。

それが「**地域的多様性＝多様な地域課題**」の明確化に取り組む

ESDの岡山モデルです。

2005年から岡山地区で行われてきたESD推進の方法仕組みは次のとおり

1. 多種多様な団体や人がESDに関わる「場」が提供されている。
2. 行政により主体的かつ継続的なESDの推進が行われている。
3. 専従コーディネーター（事務局配置）によるサポートが行われている。
4. 公民館を拠点としてESDを推進している。
5. 地域が主役、大学はサポーターとなって応援している。

公民館を拠点としたESD

社会教育の拠点「公民館」。地域に密着した、地域課題を解決することをテーマにESDを推進しています。

岡輝公民館

防災を通じた多文化共生

岡輝地区は、在住外国人が多く、災害時には、日本人と外国人が共に助け合うことが求められています。

このため、「命」をキーワードに、防災活動を通して国籍を超えた地域力の構築を目指して「多国籍防災会議」を開催しています。10か国をこえる国籍の住人による話し合いから、多くの外国人は地震の体験が無く、また、日本人も災害に対する意識が低いことが分かり、一緒に防災学習や体験活動に取り組み、在住外国人を含めた地域のネットワークづくりを進めています。



地域のつながりによるESD

地域には学びの種がたくさんあります。学校・地域・行政などが、連携してESDに取り組んでいます。

藤田学区 「農」がっなくんづくり・地域づくり

岡山市立第一藤田小学校

藤田地域の農作物について食べ物マップ作りやフィールドワークを通して、持続可能な地域づくりを考えています。



岡山市立第二藤田小学校

学区の玉ねぎ農家の協力による収穫体験。藤田の豊かな実りに気づき、地域学習につなげています。

岡山市立第三藤田小学校

地域の方と共に「20年後の藤田の米作り」について考える「プロジェクト八十八」を実施しています。「藤田に農業は必要か」をテーマに子どもたちが様々なことに取り組めます。

岡山県立興陽高等学校

環境に優しい稲作にアヒル農法を取り入れ、ファミリー稲作体験会を実施しています。また菜の花エコプロジェクト活動にも取り組んでいます。藤田学区の小・中学校でのESDの講師役になることもあり、学校間・学校と地域の連携の橋渡しの役割も担っています。



考 察

岡山市のSDGs推進の組み立てを見て来ました。その推進の基盤をESDの推進に於いているのが分かります。2015年以降岡山市はそのESD活動に取り組んでいると言われますが、それに溯る事2002年のヨハネスブルグサミットにおいて、国内NGOの提言を受けた日本政府の提言がもととされています。それにより2005年～2014が「持続可能な開発の為の10年」と定められ、ユネスコを中心とした活動が展開されています。2014年には岡山市と名古屋市で世界会議が開催されています。

そうした実践の積み重ねがあって、第1次SDGs未来都市の指定が受けられたのだと思います。特にその取り組み内容ですが、フォーマル教育の場としての学校教育・高等教育の場にあっては**積極的なユネスコスクールへの登録**による学校でのESD実践の取り組みであり、ノンフォーマルな社会教育の場を活用した横への広がり重要視しての活動の展開が特徴です。その代表的な場が**公民館を活用した場**であり、**図書館におけるESDへの取り組み**であり、**学区を活用した地域のつながり**によるESDの活動です。

こうした取り組みがあって、政策として捉えるSDGs活動がその力を発揮できるのだと説明されましたが納得できるどころです。その**事業推進のための体制作りの活動そのものを捉えて**、基礎からのSDGs活動の場造りの活動そのものを**SDGs未来都市活動として登録**したとも言えなくもありません。この辺の意識レベルの差が他の自治体の未来都市への応募とは根本的に違うのではないかと捉えてきました。高山市との比較に当たっては、SDGsの取り組みそのものよりも地域の問題解決を図る「まちづくり協議会」の活動や、地域との連携を重要視した「コミュニティスクール」の活動と比較してしまいます。高山市にあってもユネスコスクールへの登録は2019年に全市の小中学校で実施されました。コミュニティスクールへの取り組みも実施もされています。しかしその推進体制が異なるのではと見てきました。**学校教育と社会教育との連携の問題、行政と学校とのつながりの問題**です。

岡山市は中学校における学校群を使ったまとまりのある活動領域で、地域とのつながりを強固なものとしようとしています。その辺が高山市域での小学校区にこだわる高山市の「まちづくり協議会」の運営体制との違いです。高山市の以前の社会教育体制という括りでの活動と、地域との繋がりを公民館活動や学区での繋がりで、中学校の学校群を活用して推進している岡山市との組み立てを良い処取りする事ができないのかと考えてしまいます。地域課題の解決といっても本来行政の仕事である土木費を配分してまち協の事業予算に加える高山市の考えには、今でも抵抗があります。又高山市の支所地域は全て1小学校1中学校の体制であり、高山地域の現行小学校区に配慮しているまち協の区域指定は見直す必要があります。中学校の学校群の活用です。今後の問題として改善に向かいたいと考えます。

ESD問題からすると、飛驒センター設立時には**Earth Wisdom Center**という方向でその名称が考えられていたとも聞きます。**持続可能性を求めた世界的規模での活動に、もっと横の連携を深め地域を巻き込んで取り組んで行きたい**と考えます。